

グローバル・ロボティクス株式ファンド (為替ヘッジあり・1年決算型)

追加型投信／内外／株式

交付運用報告書

第7期(決算日2023年7月20日)

作成対象期間(2022年7月21日～2023年7月20日)

第7期末(2023年7月20日)	
基準価額	21,317円
純資産総額	16,545百万円
第7期	
騰落率	22.9%
分配金(税込み)合計	0円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

○交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。

○当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、下記の手順にて閲覧・ダウンロードいただけます。

<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>

右記URLにアクセス ⇒ ファンド検索機能を利用して該当ファンドのページを表示 ⇒ 運用報告書タブを選択 ⇒ 該当する運用報告書をクリックしてPDFファイルを表示

○運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、「グローバル・ロボティクス株式ファンド(為替ヘッジあり・1年決算型)」は、2023年7月20日に第7期の決算を行ないました。

当ファンドは、主として、日本を含む世界各国の金融商品取引所に上場されているロボティクス関連企業の株式に実質的に投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行なってまいりました。

ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

<643351>

日興アセットマネジメント株式会社

東京都港区赤坂九丁目7番1号
www.nikkoam.com/

当運用報告書に関するお問い合わせ先

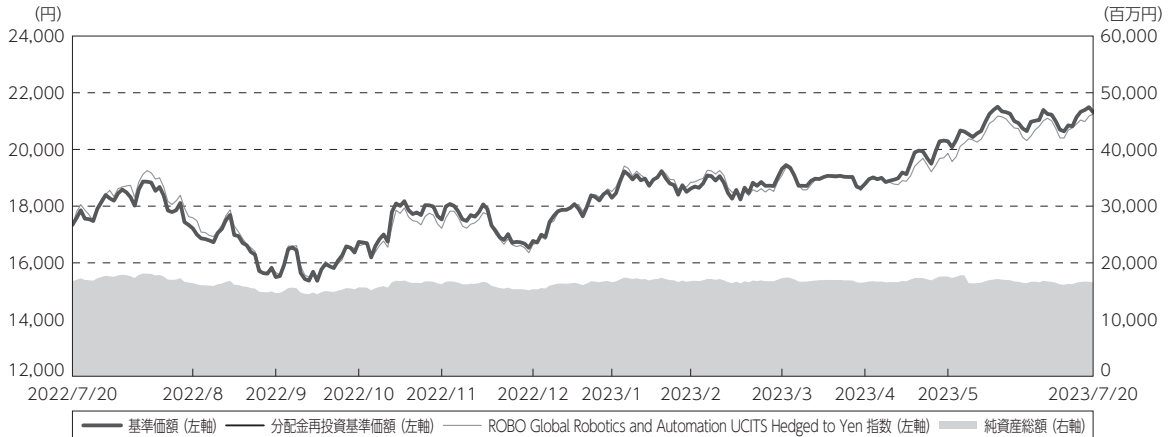
コールセンター 電話番号: 0120-25-1404
午前9時～午後5時 土、日、祝・休日は除きます。

●お取引状況等についてはご購入された販売会社にお問い合わせください。

運用経過

期中の基準価額等の推移

（2022年7月21日～2023年7月20日）



期 首：17,339円

期 末：21,317円（既払分配金（税込み）：0円）

騰落率： 22.9%（分配金再投資ベース）

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
 (注) 分配金再投資基準価額およびROBO Global Robotics and Automation UCITS Hedged to Yen 指数は、期首（2022年7月20日）の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
 (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
 (注) ROBO Global Robotics and Automation UCITS Hedged to Yen 指数は当ファンドの参考指数です。

○基準価額の主な変動要因

当ファンドは、主として、日本を含む世界各国の金融商品取引所に上場されているロボティクス関連企業の株式に実質的に投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行なっております。また、実質外貨建資産については、為替変動リスクの低減を図るため、原則として対円での為替ヘッジを行なっております。当作成期間中における基準価額の主な変動要因は、以下の通りです。

<値上がり要因>

- ・ AI（人工知能）ブームを背景に半導体に対する需要が強まるとの見通しを受けて、FA（ファクトリー・オートメーション）関連や半導体関連、電子部品関連などの銘柄を中心に、ロボティクス関連銘柄が相対的に堅調に推移したこと。
- ・ コロナ禍で先送りされていた手術などの正常化に伴ない、一部の医療関連銘柄の株価が上昇したこと。

<値下がり要因>

- ・インフレが高止まりするなか、欧米の中央銀行が景気よりもインフレ抑制に重点を置く姿勢を明確にしたことを受け、グロース株を中心に株価が軟調に推移したこと。
- ・2023年3月にかけて、米国の銀行破綻が相ついだことや欧州の銀行の経営危機などを受けて、金融システムに対する不安が強まり株式市場に下落圧力がかかったこと。

1万口当たりの費用明細

(2022年7月21日～2023年7月20日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	352	1.936	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（ 投 信 会 社 ）	(170)	(0.935)	委託した資金の運用の対価
（ 販 売 会 社 ）	(170)	(0.935)	運用報告書など各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供などの対価
（ 受 託 会 社 ）	(12)	(0.066)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料	1	0.007	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
（ 株 式 ）	(1)	(0.007)	
(c) 有 価 証 券 取 引 税	0	0.001	(c) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
（ 株 式 ）	(0)	(0.001)	
(d) そ の 他 費 用	6	0.034	(d) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（ 保 管 費 用 ）	(2)	(0.012)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
（ 監 査 費 用 ）	(1)	(0.004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（ 印 刷 費 用 等 ）	(3)	(0.017)	印刷費用等は、法定開示資料の印刷に係る費用など
（ そ の 他 ）	(0)	(0.000)	その他は、信託事務の処理等に要するその他の諸費用
合 計	359	1.978	
期中の平均基準価額は、18,186円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

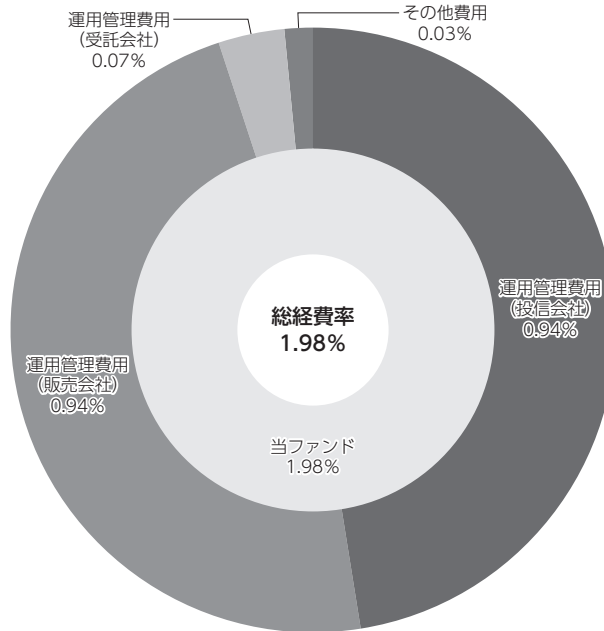
(注) 売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含まず。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

（参考情報）

○総経費率

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.98%です。



(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 「その他費用」には保管費用が含まれる場合があります。なお、「その他費用」の内訳は「1万口当たりの費用明細」にてご確認ください。期中の費用の総額と年率換算した値は一致しないことがあります。

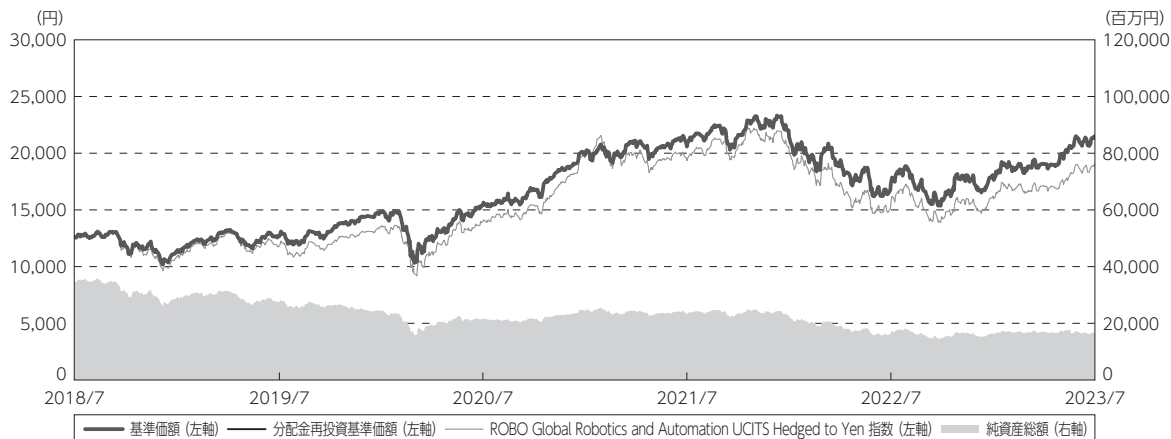
(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 当ファンドの費用は、親投資信託が支払った費用を含みます。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移

（2018年7月20日～2023年7月20日）



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額およびROBO Global Robotics and Automation UCITS Hedged to Yen 指数は、2018年7月20日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

	2018年7月20日 決算日	2019年7月22日 決算日	2020年7月20日 決算日	2021年7月20日 決算日	2022年7月20日 決算日	2023年7月20日 決算日
基準価額 (円)	12,629	12,681	15,412	20,581	17,339	21,317
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	0	0	0	0	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	0.4	21.5	33.5	△ 15.8	22.9
ROBO Global Robotics and Automation UCITS Hedged to Yen 指数騰落率 (%)	—	△ 6.4	18.2	38.4	△ 19.5	22.5
純資産総額 (百万円)	34,812	27,544	21,535	23,152	16,777	16,545

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
- (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。
- (注) ROBO Global Robotics and Automation UCITS Hedged to Yen 指数は当ファンドの参考指数です。参考指数は投資対象資産の相場を説明する代表的な指数として記載しているものです。

投資環境

（2022年7月21日～2023年7月20日）

（株式市況）

世界の株式市場は、2022年9月にかけてインフレが高止まりするなか、欧米の中央銀行が景気の下支えよりもインフレ抑制に重点を置く姿勢を明確にしたことなどを受け下落しました。しかし、10月以降は欧米の中央銀行による今後の利上げ幅が縮小するとの見方が広がったことに加え、10月および11月の米国の消費者物価指数（CPI）に鈍化が見られたことなどから全体的に反発しました。

2023年の世界の株式市場は、欧米主要国におけるインフレ動向と、各国中央銀行の金融引き締めといったマクロ要因に大きく左右される展開となりました。3月に入ると米国の銀行破綻が相ついでことや欧州の銀行の経営危機などをを受けて、金融システムに対する不安が強まり市場は混乱したものの、その後の金融当局による対応もあって落ち着きを取り戻しました。4月以降は米国のインフレ率が鈍化傾向を示し、米国連邦準備制度理事会（FRB）による利上げ打ち止めが近いとの見方から底堅く推移しました。6月の米国連邦公開市場委員会（FOMC）で利上げが見送りとなったことも市場を後押しする要因になったほか、AIブームを背景に半導体に対する需要が強まるとの見通しを受けて、半導体関連を中心にテクノロジー関連セクターが牽引する形で世界の株式市場は期末にかけて概ね上昇基調が継続しました。

ロボティクス関連銘柄の株価は世界の株式市場に比べて堅調に推移しました。金利上昇による成長株のバリュエーション（株価評価）調整はマイナスに働いたものの、AIブームを背景に半導体に対する需要が強まるとの見通しを受けて、FA関連や半導体関連、電子部品関連などの銘柄を中心に、ロボティクス関連銘柄は相対的に堅調に推移しました。

当ファンドのポートフォリオ

（2022年7月21日～2023年7月20日）

（当ファンド）

当ファンドは、「グローバル・ロボティクス株式マザーファンド」受益証券を高位に組み入れて運用を行ないました。実質外貨建資産については、為替変動リスクの低減を図るため、原則として対円での為替ヘッジを行ないました。

（グローバル・ロボティクス株式マザーファンド）

ボトムアップアプローチを重視し、大きな変革期にあるロボティクス市場で高い成長が見込まれると考える企業に着目した運用を行ないました。

当期間は引き続き情報技術セクター、資本財・サービスセクターなどを中心に、物価が高止まりするなかであって、これを価格に転嫁すること、また、仮に景気後退に陥ってもダウンサイドに備えることが可能と考える銘柄を厳選し、投資しました。また、好業績が評価されて株価が上昇した銘柄から、中期の期待は高いものの足元の業績が軟調で株価が下落した銘柄への入替えなども行ないました。

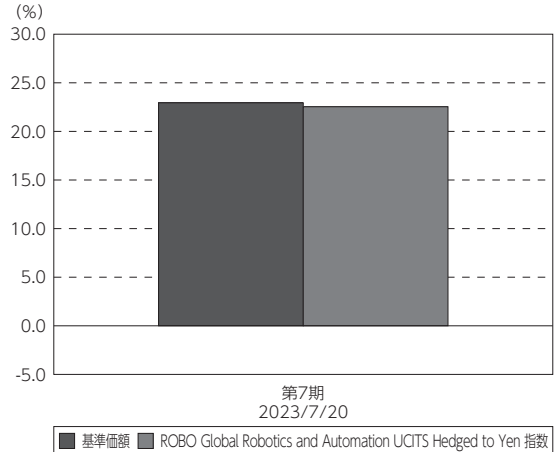
当ファンドのベンチマークとの差異

（2022年7月21日～2023年7月20日）

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。

グラフは、当ファンドの基準価額と参考指数の騰落率です。

基準価額と参考指数の対比（期別騰落率）



(注) 基準価額の騰落率は分配金（税込み）込みです。
 (注) ROBO Global Robotics and Automation UCITS Hedged to Yen 指数は当ファンドの参考指数です。

分配金

（2022年7月21日～2023年7月20日）

分配金は、基準価額水準、市況動向などを勘案し、以下のとおりといたしました。なお、分配金に充当しなかった収益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

○分配原資の内訳

（単位：円、1万口当たり、税込み）

項 目	第7期
	2022年7月21日～ 2023年7月20日
当期分配金	—
（対基準価額比率）	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	11,316

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

（当ファンド）

引き続き、ファンドの基本方針に則り、「グローバル・ロボティクス株式マザーファンド」受益証券を原則として高位に組み入れて運用を行いません。実質外貨建資産については、為替変動リスクの低減を図るため、原則として対円での為替ヘッジを行いません。

（グローバル・ロボティクス株式マザーファンド）

米国で利上げが一時的に見送られたものの、政策金利の見通しについて2023年内に2回程度の追加利上げが想定される内容となったことを受けて、年の後半から2024年にかけての景気後退懸念が引き続き大きな関心事となっています。一方で生成AIを始めとする今後の世界を大きく変える技術進化がもたらす中長期の成長性については、まだまだ議論が尽くされておらず、今後ますます注目が集まっていくものと考えています。将来有望な技術を持つ企業の本源的価値は研究開発投資や設備投資により上昇しているとの考えは変わりません。現在の不便で非効率になりつつある世界において、そういった問題を解決もしくは緩和できる新しいテクノロジーの価値は上昇しているとの考えに確信を強めています。

ロボティクスにとって、一層のデータ活用、サプライチェーン（供給網）見直し、賃金インフレ、CO2削減などの動きは、自動化・自律化の新たな追い風になっています。多くの技術が社会課題の解決のために求められていく可能性を秘めており、中長期的に当ファンドの投資対象であるロボティクス関連銘柄の魅力は非常に高いと考えます。引き続き短期的な株価変動はむしろチャンスと捉え、バリュエーションを重視した運用を今後も継続していく方針です。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

今後ともご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

お知らせ

2022年7月21日から2023年7月20日までの期間に実施いたしました約款変更は以下の通りです。

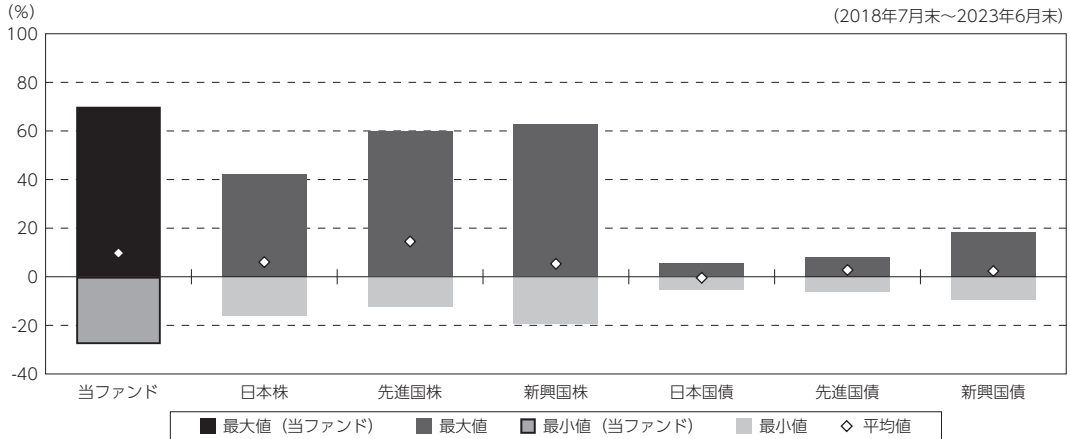
当ファンドについて、その商品性、基準価額水準および純資産規模等を勘案し、信託期間を10年更新して信託終了日を2035年7月20日とするべく、2022年10月21日付けにて信託約款の一部に所要の変更を行ないました。（第4条）

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／株式	
信託期間	2017年1月23日から2035年7月20日までです。	
運用方針	主として、「グローバル・ロボティクス株式マザーファンド」受益証券に投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行ないます。	
主要投資対象	グローバル・ロボティクス株式ファンド （為替ヘッジあり・1年決算型）	「グローバル・ロボティクス株式マザーファンド」受益証券を主要投資対象とします。
	グローバル・ロボティクス 株式マザーファンド	日本を含む世界の金融商品取引所上場株式を主要投資対象とします。
運用方法	主として、「グローバル・ロボティクス株式マザーファンド」受益証券に投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行ないます。産業用やサービス用などのロボットを製作する企業のみならず、ロボット関連技術であるAI（人工知能）やセンサーなどの開発に携わる企業も投資対象とします。実質外貨建資産については、為替変動リスクの低減を図るため、原則として対円での為替ヘッジを行ないます。	
分配方針	毎決算時、原則として分配対象額のなかから、基準価額水準、市況動向などを勘案して分配を行なう方針です。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行なわないこともあります。	

（参考情報）

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位: %)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	70.0	42.1	59.8	62.7	5.4	7.9	18.5
最小値	△ 27.7	△ 16.0	△ 12.4	△ 19.4	△ 5.5	△ 6.1	△ 9.4
平均値	9.7	6.0	14.5	5.3	△ 0.4	2.8	2.3

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2018年7月から2023年6月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《各資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数（TOPIX、配当込）

先進国株：MSCI-KOKUSAIインデックス（配当込、円ベース）

新興国株：MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込、円ベース）

日本国債：NOMURA-BPI国債

先進国債：FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債：JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースィファイド（円ヘッジなし、円ベース）

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

当ファンドの参考指数について

●ROBO Global Robotics and Automation UCITS Hedged to Yen 指数

ROBO Global Robotics and Automation UCITS Hedged to Yen 指数は、ROBO Global Partners Ltdが開発した、世界のロボティクス関連等の株式を対象にした指数です。

指数について

●東証株価指数（TOPIX、配当込）は、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、株式会社 J P X 総研又は株式会社 J P X 総研の関連会社に帰属します。●MSCI-KOKUSAIインデックス（配当込、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。●MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。●NOMURA-BPI国債は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が公表している指数で、その知的財産権は野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属します。なお、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社は、対象インデックスの正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、対象インデックスを用いて行われる日興アセットマネジメント株式会社の事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。●FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、当指数に関する著作権等の知的財産その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。●JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースィファイド（円ヘッジなし、円ベース）は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

（2023年7月20日現在）

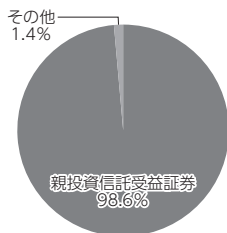
○組入上位ファンド

銘柄名	第7期末
グローバル・ロボティクス株式マザーファンド	98.6%
組入銘柄数	1銘柄

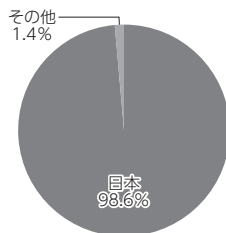
（注）組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

（注）組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

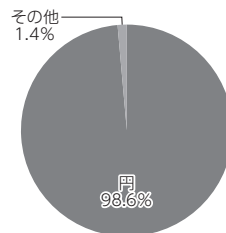
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



（注）比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

（注）国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

（注）その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

純資産等

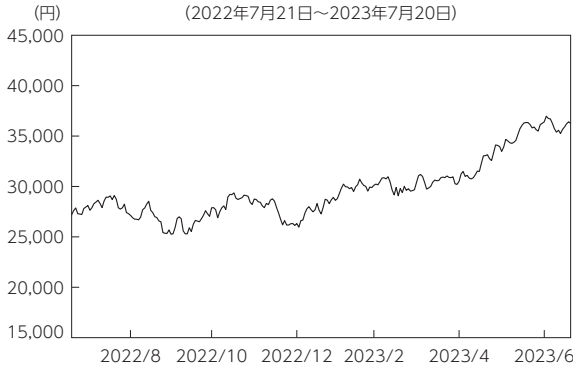
項目	第7期末
	2023年7月20日
純資産総額	16,545,927,090円
受益権総口数	7,761,855,420口
1万口当たり基準価額	21,317円

（注）期中における追加設定元本額は319,804,502円、同解約元本額は2,234,280,848円です。

組入上位ファンドの概要

グローバル・ロボティクス株式マザーファンド

【基準価額の推移】



【1万口当たりの費用明細】

(2022年7月21日～2023年7月20日)

項目	当期	
	金額	比率
(a) 売買委託手数料 (株 式)	2 (2)	0.008 (0.008)
(b) 有価証券取引税 (株 式)	0 (0)	0.001 (0.001)
(c) その他費用 (保管費用) (その他)	3 (3) (0)	0.012 (0.012) (0.000)
合計	5	0.021

期中の平均基準価額は、29,455円です。

(注) 上記項目の概要につきましては運用報告書(全体版)をご参照ください。
 (注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
 (注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

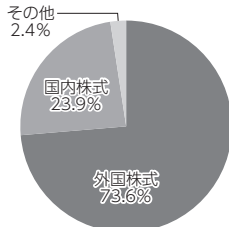
【組入上位10銘柄】

(2023年7月20日現在)

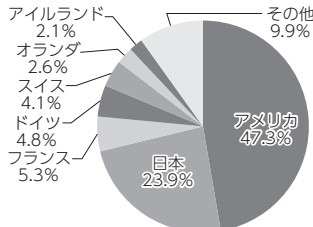
銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率
1 ABB LTD-REG	資本財	スイスフラン	スイス	4.1%
2 NVIDIA CORP	半導体・半導体製造装置	アメリカドル	アメリカ	3.9%
3 キーエンス	電気機器	円	日本	3.9%
4 ROCKWELL AUTOMATION INC	資本財	アメリカドル	アメリカ	3.7%
5 INTUITIVE SURGICAL INC	ヘルスケア機器・サービス	アメリカドル	アメリカ	3.7%
6 SCHNEIDER ELECTRIC SE	資本財	ユーロ	フランス	3.2%
7 INFINEON TECHNOLOGIES AG	半導体・半導体製造装置	ユーロ	ドイツ	2.8%
8 デイスコ	機械	円	日本	2.7%
9 THERMO FISHER SCIENTIFIC INC	医薬品・バイオテクノロジー/サイエンス	アメリカドル	アメリカ	2.4%
10 ALPHABET INC-CL C	メディア・娯楽	アメリカドル	アメリカ	2.3%
組入銘柄数	52銘柄			

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。
 (注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。
 (注) 国(地域)につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

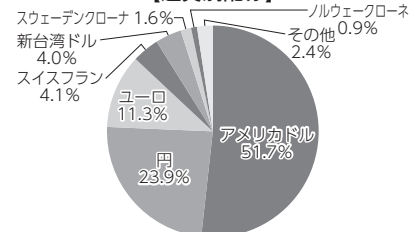
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。
 (注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。
 (注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書(全体版)をご参照ください。